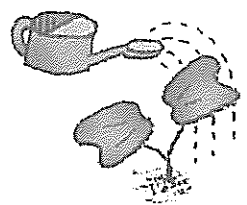


第2回

短所と長所は根っこが同じ！



「うちの子、親の言っていることを何もきいてくれない」  
 「何をすることも引込み思案で困っています」  
 「飽きっぽく、何をやっても長続きしないです」  
 多くの親御さんは、わが子の短所に敏感です。

「お子さんの長所と短所を挙げてください」  
 とたずねたところ、短所は際限なく出てくる。「長所は数個しか挙げられない」といふ声もあります。  
 短所に目をいくのは「悪いところは早いうちに直し、良いところを伸ばしてあげたい」という親の愛情の表れでしょう。

でしよう。

なぜなら、長所と短所は、実際には同じ「根っこ」をまわっているのだから、たくまげう顔をして表面に出ていることもあるからです。たとえば、上の図のような真面目。これらが表裏の関係にあることはおわかりでしょう。

根っこが同じであるため、一見短所と思われることが、長所としていくてくる場面もあります。

たとえば、学校に著名なCMクリエイターの方を招き、生徒がCM用のキャッチコピーを作るといった特別授業を行ったとき、こんなことがありました。

「あの班には才能のある生徒がいる」と話すCMクリエイターの方に、

短所と長所は根っこが同じ!?

- 言うことをきかない  
→ 自立心が強い
- 引込み思案  
→ 物事を慎重に対処する
- 飽きっぽく長続きしない  
→ 好奇心が強く、チャレンジ精神旺盛

短所は長所!? 背中合わせの関係

ところが、悪いところを取り除こうとするほど、良いところも一緒に消えてしまっていることがあるのです。

「どんな才能ですか?」

とたずねたところ、

「くだらないことを次々と思いつくだけです」  
 とおっしゃったのです。

私は驚きました。もし、国語や数学などの授業中にくだらないことを思いつき、それを口に出したりすれば、ほめられるどころか、しかられてしまうかもしれません。けれど、一歩学校の外に出れば、その能力が、豊かですばらしい才能としていきる場所もあるのです。

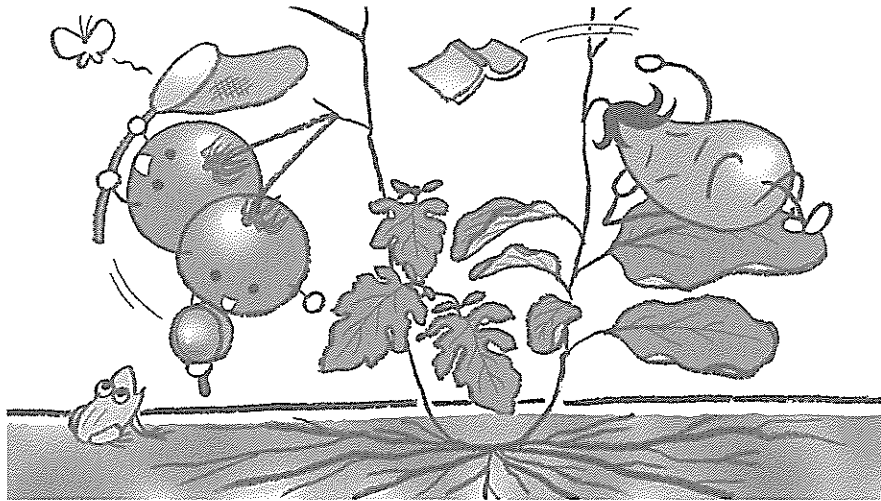
そういえば、授業中によくノートに落書きをしていた生徒がいましたが、彼女は出版社に勤め、今では児童書の編集者として活躍しています。

その短所、長所として花咲く

日がくるかもしれません

視点を少し動かすだけで見方が変わる。心理学ではこれを、フレーム(額縁)をかけるおすという意味で「リフレーム」というそうです。たとえば、同じチューリップの花でも、真横から見た形と、真上から見た形とは、まるで印象がちがいますよね。一方向だけではなく、いろいろな角度から見ることが、ちがった能力を見出すことができるともいえます。

短所に思えることでも無理に矯正しようせず、日の当たる時期や場所に出会うまで、大切に育てておいたほうがよいこともあるでしょう。



DATE

品川女子学院 校長

漆 紫穂子

●うるし しほこ●

1989年に品川女子学院に国語の教員として着任。2006年より同校の6代目校長。人生を自らの意志でつくれる子どもの育成にあたり。著書に『伸びる子の育て方』(ダイヤモンド社)などがある。

(イラスト・鳥田もず)